ALINCO

UHF FM HANDY TRANSCEIVER
DJ-G40
VHF FM HANDY TRANSCEIVER
DJ-G10

取扱説明書

ALINCOトランシーバーをお買い上げいただきましてありがとうございます。
本機の機能を充分に発揮させて効果的にご使用いただくため、ご使用前にこの取扱説明書を最後までお読み下さい。またこの取扱説明書は必ず保存下さい。ご使用中の不明な点や不具合が生じた時お役に立ちます。
本機は日本国内専用のモデルですので、外国で使用することはできません。

アルインコ電子株式会社

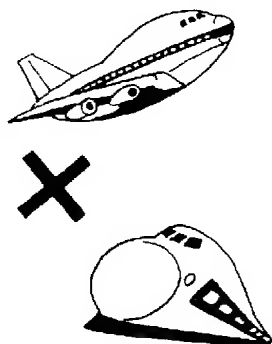
この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

目　次

1.ご使用の前に

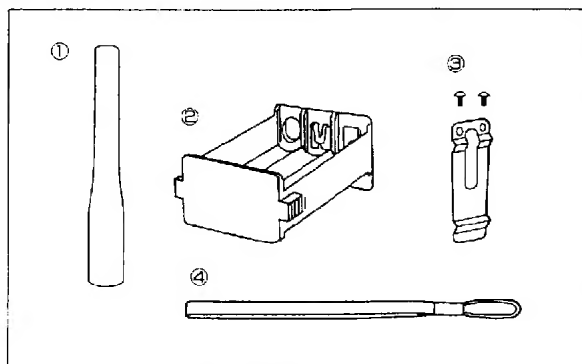
1-1　ご注意

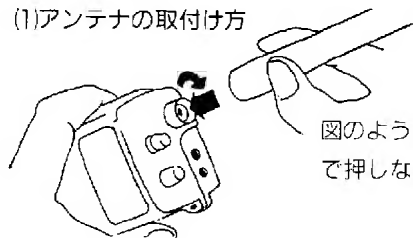
- ケースをはずして内部に手を触れないで下さい。
- 乾電池の＋、－を正しい方向に入れて下さい。
- 付属のアンテナを完全に取りつけてお使い下さい。
- 高温、多湿、ほこりの多い場所は避けてご使用下さい。
- 外部電源には必ず専用のアクティブフィルター付シガライターケーブル(EDC-36)をお使い下さい。

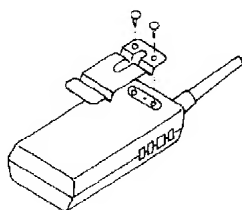
1-2　電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局が運用されています。これらの無線局の近くで電波を発射するとアマチュア無線局が電波法令を満足していても、思わぬ電波障害を起こすことがありますので、移動運用の際には、十分ご注意下さい。
特に次のような場所での運用は原則として行なわず、必要な場合は、管理者の承認を得るようにしましょう。
航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局及び中継局周辺など。

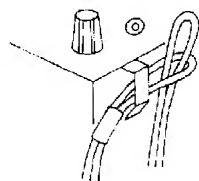
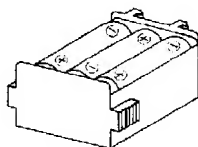
2.付属品について

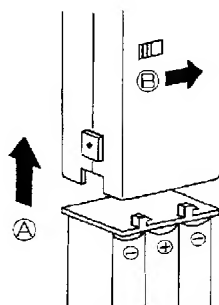
開梱しましたら付属品の確認をして下さい。

① アンテナ
② 乾電池ケース
③ ベルトクリップ
(ビス2本)
④ ハンドストラップ
● 取扱説明書
● 保証書

付属品の取付け方

(1)アンテナの取付け方

図のようにアンテナコネクター部を持って止まるまで押しながら右に回して下さい。

(2)ベルトクリップの取付け方

付属のベルトクリップをビス2本で本体の後側に図のように取り付けます。

(3)ハンドストラップの取付け方

電池のセット

1. バッテリーケース内の⊕、⊖の印に従い市販の単三乾電池6本を入れます。
（長時間運用のためにはアルカリ乾電池のご使用をおすすめします）

2. 左図のようにバッテリーケースのツメを本体後面に合わせ、バッテリーケースを挿入します。（Ⓐ）入りきるとカチッという音がします。
㊟ツメが逆方向になっていると入りません。無理に押込まないで下さい。

取りはずし方

バッテリーケースロックを右に押すとケースが外れます。（Ⓑ）

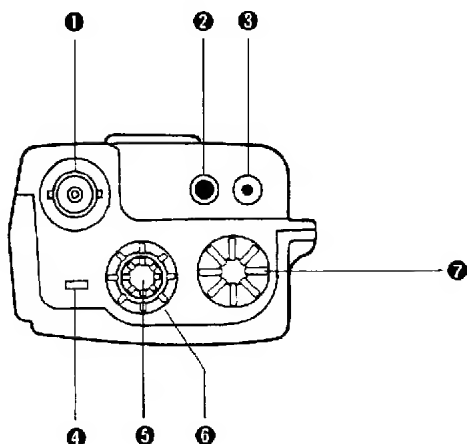
オプションのニッカドバッテリーEBP-30N/EBP-31N/EBP-32Nも同様の方法で着脱できます。

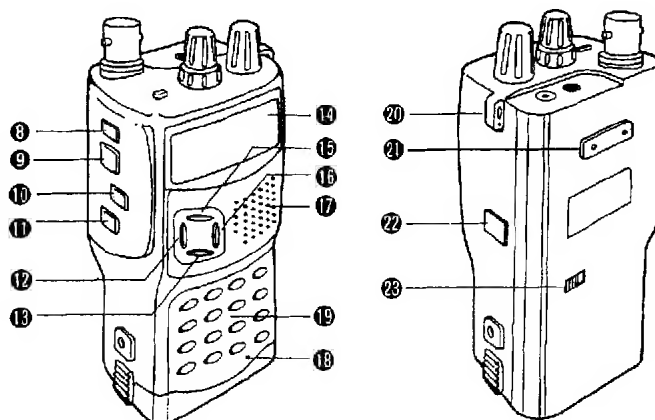
電池寿命を長くするために…

- バッテリーセーブ機能をONにする。（P40）
- 使用しない時は電源を切っておく。
  オートパワーオフを設定しておくと、電源の切り忘れを防ぐことができます。（P39）
- 送信時間はできるだけ短くする。
- 近距離の交信はLOWパワーで行う。

3.各部の名称と機能

3-1　上面操作部

ページ

❶	アンテナ コネクター	付属のアンテナを接続するためのコネクターです。BNCコネクターを使用すれば外部アンテナを接続できます。	2
❷	SP端子	当社オプションのスピーカープラグ接続端子です。	—
❸	MIC端子	当社オプションのマイクプラグ接続端子です。	—
❹	ON AIR/BUSY ランプ	信号を受信すると緑色に点灯し、PTT キーを押して送信中は赤色に点灯します。	10 11
❺	電源/ボリューム ツマミ → VOL	電源のON/OFFおよび音量調整のツマミです。右に回すと電源が入り、さらに回すと受信音が大きくなります。	10
❻	スケルチツマミ → SQL	無信号時の〝ザーッ〟という音を消去するツマミです。右に回すと〝ザーッ〟という音が消えます。	10
❼	ダイヤルツマミ	運用周波数の設定やメモリーチャンネルの切り換えやその他各設定の切り換え等を行います。	13

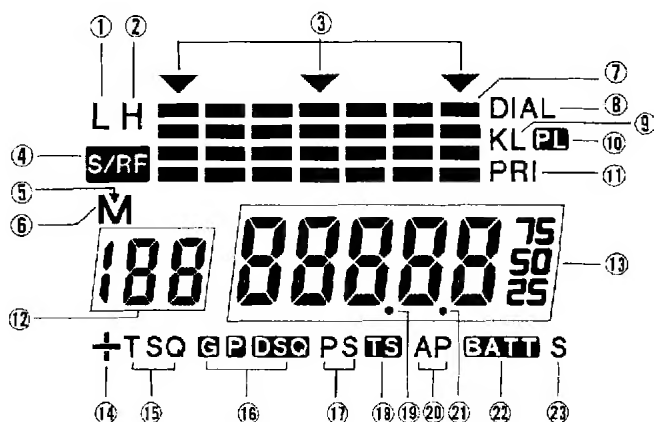
3-2　前後面、側面操作部

			ページ
⑧	ファンクションキー FUNC	このキーと他のキーを組み合わせて使用することにより、いろいな機能を呼び出すことができます。 VFOモードでこのキーを押している間メモリーチャンネルNo.が表示します。	9
⑨	PTTキー PTT	このキーを押している間、送信状態になります。	11
⑩	LOW PTTキー LOW PTT	このキーを押している間、設定のパワーとは無関係にLOWパワーで送信します。	11
⑪	MONI・BSキー MONI	このキーを押している間、SQLツマミの位置にかかわらず、ツマミを左に回しきった時と同じ動作になります。(トーンスケルチ、DTMFスケルチ設定中は動作しません) Fキーを押しながら押すとバッテリーセーブ動作をON/OFFします。	10 40
⑫	CALL・BANDキー	コールチャンネルを呼び出すキーです。 Fキーを押しながら押すと、メインバンド/サブバンドの切換えを行います。	20 12

※PTTとLOW PTTの両方を指して PTT と記述します。各設定モードで PTT キーを押すと、送信はしないで設定を終了します。

※ FUNC キーは F キーと記述します。

			ページ
⑬	V/M･MW キー	このキーを押すとVFOモードとメモリーモードが切換わります。 [F] キーを押しながら押すとメモリーchの登録、消去を行います。	17 〜 19
⑭	LCD表示部	各機能の動作、状態を表示します。	7 8
⑮	LAMP･SPLIT キー	このキーを押すとLCDランプが5秒間点灯します。 [F] キーを押しながら押すとスプリット動作を行います。	36 〜 38
⑯	SCAN･PO キー	このキーを押すとスキャン動作を行います。 [F] キーを押しながら押すと送信出力パワーが切換わります。	11 21 〜 23
⑰	スピーカー	薄型スピーカーが内蔵されています。	—
⑱	マイクロホン	マイクロホンが内蔵されています。	—
⑲	キーボード	周波数、DSQコードの入力を行います。 [F] キーを押しながら押すといろいろな機能を実行します。	9
⑳	ハンドストラップ 取付穴	付属品のハンドストラップを取り付けて下さい。	2
㉑	ベルトクリップ 取付穴	P2 を参考に付属品のベルトクリップを取り付けて下さい。	2
㉒	DC-IN	13.8Vの外部電源接続端子です。 当社オプションのアクティブフィルター付シガライターケーブル(EDC-36)を必ず使用して下さい。	—
㉓	バッテリーケース ロック	電池交換はP3を参考にして下さい。	3

※各キーの上・下・左・右の青字は[F]キーを押しながら操作した時の機能です。

3-3　表示部

ページ

①	L	送信出力LOWパワー設定時、点灯します。	11
②	H	送信出力HIGHパワー設定時、点灯します。	11
③	▼　▼　▼	スプリットモード中は3つとも点灯し、チャンネルスコープ中はいずれか1つが点灯します。	24～30 36 37
④	S/RF	送信中やスケルチが開いている時に点灯します。	10 11
⑤	▼	▼が点灯しているメモリーは、メモリースキャン中にスキップされます。また、DSQコード設定中の点灯は受信を許可するコードを表します。	23 43
⑥	M	メモリーモードであることを表します。	17～19
⑦	▬▬▬	送信、受信の強さをレベル表示します。	10 11 24～30
⑧	DIAL	点灯中に[F]キーを押しながら送信するとオートダイアルメモリーのコードを送出します。	49～51
⑨	KL	キーロック状態を表します。	38 39
⑩	PL	PTTキーロック状態を表します。	

ページ

⑪	PRI	プライオリティ中に点灯します。	31 32
⑫	188	メモリーNoを表示します。	17 ～ 19
⑬	88888 75 50 25	送受信周波数、オフセット周波数、トーン周波数、チャンネルステップ、DSQコード、DIALコード等を表示します。	—
⑭	±	シフト方向(＋、－)を表示します。	33
⑮	TSQ	トーンエンコーダ、トーンスケルチの設定状態を表示します。	34 53 35 54
⑯	G P DSQ	DSQ運用状態を表します	41 ～ 48
⑰	PS	点灯中のスキャンはプログラムスキャンです。	22 29
⑱	TS	点灯中のスキャンはタイマースキャンです。 最初に電源を入れた時にはTSは点灯しています。	21 ～ 23 28 29
⑲	88888	送受信周波数オフセット周波数を表示している時のMHzデシマルポイントです。 スキャン中は点滅します。	
⑳	AP	オートパワーオフ設定中に点灯します。	39
㉑	8888	トーン周波数を表示している時のHzデシマルポイントです。	34 54
㉒	BATT	電池、バッテリーの容量が少なくなった状態を表します。	39
㉓	S	バッテリーセーブ設定中、点灯します。	40

※本説明書では各操作の説明にある表示はDJ-G40のものですが、周波数以外はDJ-G10も同じです。

3-4 キーボード

(青文字機能)

キー	Fキーを押さないとき		ページ	Fキーを押しながらのとき	ページ
TONE 1	数字1の入力		15	トーンエンコーダ/デコーダ、トーン周波数の設定	34 53 35 54
OFFSET 2	数字2の入力			シフト方向、オフセット周波数の設定	33
REV 3	数字3の入力			シフト、スプリットのリバース動作	36 37
WAIT 4	数字4の入力			DSQコード送出までの時間設定	48
SKIP 5	数字5の入力			メモリースキップ	23
SEARCH 6	数字6の入力			チャンネルスコープ	24~30
K.L/PL 7	数字7の入力			キーロック、PTTロック	38 39
TMS 8	数字8の入力			タイマースキャン設定	21
APO 9	数字9の入力			オートパワーオフ設定	39
STEP 0	数字0の入力			チャンネルステップ周波数設定	16
MR▼ * ▼	周波数、メモリーNo.のDOWN	DTMFコード*の入力	14	VFOモードでのメモリーNo.のDOWN	18
MR▲ # ▲	周波数、メモリーNo.のJP	DTMFコード#の入力	17	VFOモードでのメモリーNo.のUP	
PS A PRI	プライオリティ動作	DTMFコードAの入力	31 32	プログラムスキャンスタート	22
DIAL M B RPT	レピータ運用設定(G40のみの機能)	DTMFコードBの入力	35	オートダイアラー設定	49 50
M▸V C	周波数入力の1桁訂正	DTMFコードCの入力	15	メモリーシフト	19
DSQ SET D ☞DSQ	DSQモード設定	DTMFコードDの入力	41~48	DSQコード設定	42

・PTTキーを押しながらFキーを押すとDTMFコードが送出されます。

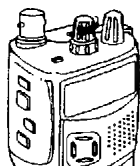
・MR▲ # ▲、MR▼ * ▼ キーにより周波数やメモリーチャンネルを変えるとき、押し続けると連続して変化します。

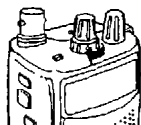
4.基本の使いかた

4-1　受信する

受信の手順

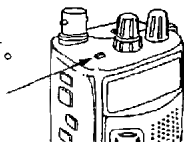
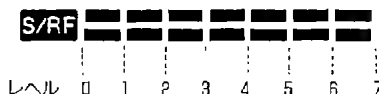
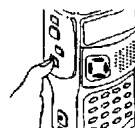
1．電源ONと音量調整

VOL を右方向に回して電源を入れます。
さらに回すと音量が大きくなります。適当な音量にして下さい。

2．スケルチを調整する。

SQL をゆっくりと右に回してゆき、〝ザーッ〟という音が消える位置にセットします。

3．周波数を設定する。

P13「VFOモードでの周波数設定方法」に従って希望の周波数に設定して下さい。
信号を受信するとスピーカーから音声が聞こえます。

受信中の表示

①BUSYランプが緑色に点灯します。

②S/RFが点灯し、受信感度をSメータに表示します。

弱い信号の受信

MONI キーを押して下さい。スケルチが開き弱い信号も受信しやすくなります。

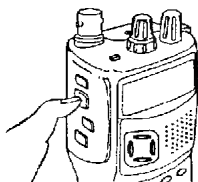
4-2 送信する

送信の手順

1. 周波数を設定する

P13「VFOモードでの周波数設定方法」に従い、周波数を設定して下さい。

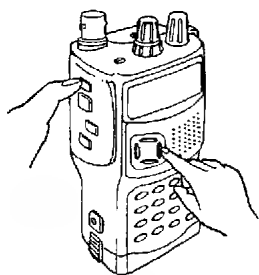
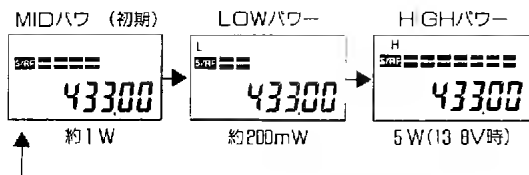
2. 送信する

PTT キー を押し、本体前面部のマイクロホンに向かって話します。

送信中はON AIRランプが赤く点灯します。

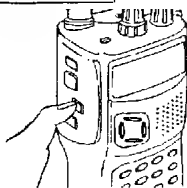
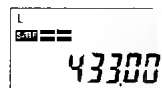
送信が終わったら PTT キーを離して下さい。
受信に戻ります。

送信出力の切換えかた

送信パワーは3段階に設定できます。

F キーを押しながら PO/SCAN キーを押します。

押す度に設定が変わります。
設定パワーにより送信中の表示が異ります。

LOWパワーで送信する

設定パワーにかかわらずLOWパワーで送信します。

LOW PTT キーを押し、本体前面部のマイクロホンに向かって話します。

LOW PTT キーを押している間はLOWパワーで送信し、キーを離すと元の設定に戻ります。

4-3 メインバンドとサブバンドについて

DJ-G40/DJ-G10はメインバンドとサブバンドの2つの周波数帯が使用できます。メインバンドでは送信と受信ができますが、サブバンドでは受信しかできません。

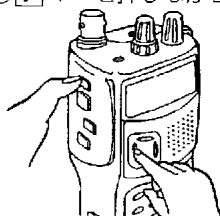
	メインバンド 送受信範囲	サブバンド 受信範囲
DJ-G40	430.00〜439.995	144.00〜145.995
DJ-G10	144.00〜145.995	430.00〜439.995

(単位：MHz)

サブバンドを受信する

① MW V/M キーを押してVFOモードにします。
MやCが点灯している時はバンド帯はそのままで、VFOモードになります。

43300

② F キーを押しながら CALL BAND キーを押します。

サブバンド受信に変わります。

14500

(解 除) もう一度同じ操作をするとメインバンドに戻ります。

サブバンド操作

- PTT キーを押しても送信できません。
  "OFF" が表示されます。
- トーン設定、シフト設定、DSQ設定、スプリット(リバース)設定はできません。無効音が鳴ります。

oFF

4-4　VFOモードでの周波数の設定方法

本機にはVFOモード、メモリーモード、コールモードの3つの運用モードがあります。最初に電源を入れた時に表示されるのがVFOモードで簡単に周波数を変更したり、各種機能が設定できます。VFO周波数の設定にはダイヤル(⑩)による方法、UP/DOWNのキーによる方法、ダイレクト入力の3つの方法があります。

ダイヤルで周波数を設定する

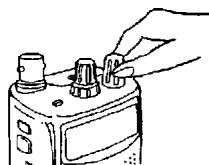
1．VFOモードにする

他のモードなら下の"運用モードの切換え"に従ってVFOモードにします。

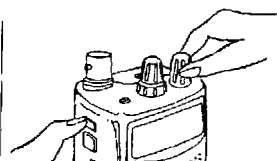
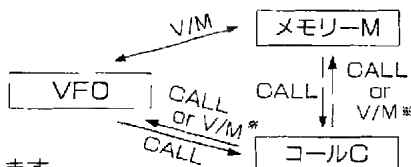
VFOモードは周波数の左にMもCも点灯しません。

433.00

2．チャンネルステップ単位で変化させる

⑩を回すと1チャンネルステップ単位でVFO周波数が変わります。

右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。
チャンネルステップの初期値は20kHzです。
変更の方法はP16をお読み下さい。

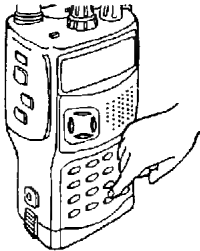
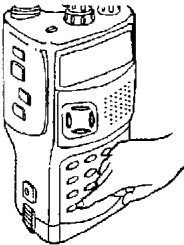
3．1MHz単位で変化させる

F キーを押しながら⑩を回すと1MHz単位で周波数が変わります。

右に回すとUPし、左に回すとDOWNします。

※コールCにする前のモードに戻ります。

UP/DOWNキーで周波数を設定する

1．VFOモードにする

P13 "運用モードの切換え" に従ってVFOモードにします。

2．チャンネルステップ単位でUPする

3．チャンネルステップ単位でDOWNする

UP/DOWNキーのリピート機能

MR▲ #、MR▼ * キーは0.5秒以上押し続けると設定が連続して変化します。周波数の設定時以外でも同様です。

キーボードを使って周波数を設定する

1．VFOモードにする

P13“運用モードの切換え”に従ってVFOモードにします。

2．周波数を入力する

(例)435.00MHzをセットする(チャンネルステップ20kHz)

100MHz台から順に[4]-[3]-[5]-[0]-[0]を入力します。

10kHz台を入力すると少し長くピー音が鳴り設定が完了します。

435.00

ピ

下記の範囲内の周波数が入力できます。

DJ-G40　430.00MHz～439.99MHz　(サブバンド設定時にはサブバンド
DJ-G10　144.00MHz～145.99MHz　側もダイレクト入力ができます。)

(注意) 周波数入力開始後5秒間操作がないと周波数入力をキャンセルし、元の周波数に戻ります。
完了音(ピー)が鳴るのを確認して下さい。

チャンネルステップによる入力方法

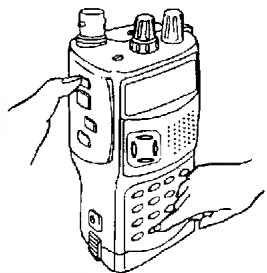
チャンネルステップによっては1kHz台の入力が必要な場合、また10kHz台で入力を受け付けないキーがあります。

5kHz	1kHz台まで入力して下さい。1kHz台は[5]以外の入力は0になります。
10kHz	10kHz台で入力完了。
12.5kHz	10kHz台で入力完了。10kHz台は[4][9]の入力は無効です。
20kHz	10kHz台で入力完了。
25kHz	10kHz台で入力完了。10kHz台は[0][2][5][7]のみ入力できます。
50kHz	10kHz台で入力完了。

入力途中のキャンセル 入力中[C]キーを押すとひとつ前に戻ります。又、[PTT]か[V/M]キーを押すと、元の周波数に戻ります。尚、入力の途中で5秒以上入力がないと、元の周波数に戻ります。

チャンネルステップを変更する

チャンネルステップ周波数はVFO周波数、オフセット周波数(P33)、スキャン(P21)、チャンネルスコープ(P24)時の基本単位となる周波数です。初期値は20kHzですが、変更することができます。

①VFOモードで、F キーを押しながら STEP 0 キーを押します。

チャンネルステップ設定モードになり、現在の設定値が表示されます。(単位kHz)

メインバンド/サブバンドは別々に設定できます。

200

②、MR▲ #、MR▼ ＊ キーにより、以下のいずれか選べます。

5.0 — 10.0 — 12.5 — 15.0 — 20.0 — 25.0 — 30.0 — 50.0 (kHz)

(終 了) MW V/M、F キーと STEP 0、PTT キーのいずれかを押します。

メインバンドのみ (F キーと TONE 1 キーを押すとトーン設定モードに、F キーと OFFSET 2 キーを押すとオフセット設定モードになります。)

(注 意) メモリーモードやコールモードでは動作せず、無効音が鳴ります。

周波数の補正について

チャンネルステップ変更や周波数ダイレクト入力の直後に1ステップ周波数分UP/DOWNすると、自動的に周波数が補正される場合があります。

(例)チャンネルステップ10kHzで433.21MHz時にステップを20kHzに変更した場合

→1ステップUPすると433.22MHzになる。

5.メモリーモードとコールモード

5-1　メモリーチャンネルの使いかた

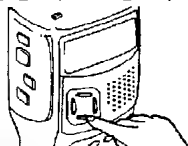
よく使う周波数や運用設定をメモリーチャンネルに登録しておくと、簡単に呼び出すことができます。本機には以下のメモリーがあります。

メモリ No.	内　　容	初　期　値
ch 0～79	メモリーチャンネル	な　し
H、L	プログラムスキャンエッジ周波数	DJ-G40 433.00MHz DJ-G10 145.00MHz
C	コールチャンネル	

メモリーに登録できる情報
①受信周波数
②シフト方向
③オフセット周波数
④トーン設定・周波数
⑤DSQ設定

メモリーチャンネルデータの呼び出しかた

1．メモリーモードにする

VFOモードで MW/V/M キーを押します。

Mとメモリ No.が表示され、メモリーモードになります。

2．メモリーNo.を選択する

ダイヤルか MR▲ キー、MR▼ キーでチャンネルを選択します。

呼び出し順

ch1　→　79　→　C
↑　　　　　　　↓
ch0←　H　←　L
(DOWN時は逆方向)

	UP	DOWN
1ch単位	ダイヤル／MR▲	ダイヤル／MR▼
10ch単位	F キーを押しながら ダイヤル／MR▲	F キーを押しながら ダイヤル／MR▼

M表示について

M点灯
メモリー登録されたデ－タを表示します。

M点滅
データ登録されていません。VFOデータを表示します。

C、L、Hの時10ch単位のUP/DOWNは受付けません。

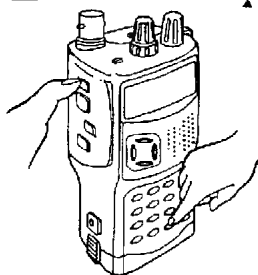
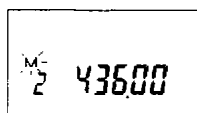
メモリーchにデータを登録する

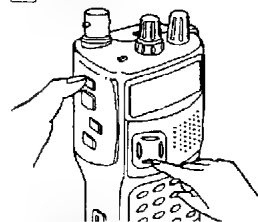
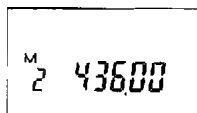
工場出荷時にはメモリーch 0～79にはデータが登録されていません。
メモリーchを運用するにはまずデータの書き込みを行って下さい。

1．周波数を設定する

VFOモードで登録したい周波数に設定して下さい。
その他シフト方向、オフセット周波数、トーン周波数等を必要に応じて設定して下さい。

2．メモリーchを選ぶ

F キーを押しながら MR▲ 、MR▼ キーでM点滅チャンネルを選びます。

VFOモードで F キーを押している間はチャンネルNo.が表示されます。

3．メモリーに登録する

F キーを押しながら MW V/M キーを押します。

完了音が鳴り、メモリーに登録されました。
Mは点灯し、F キーを離すと消灯します。
M点灯チャンネルを選んで登録すると古いデータが消えてしまいます。

メモリーモードでの登録のしかた

メモリーモードでM点滅時（メモリーchにデータがないことを表します）に F キーを押しながら MW V/M キーを押すと表示データかメモリー登録されます。Mは点滅から点灯に変わります。

メモリーデータを消去する

1．メモリーモードにする

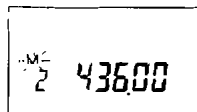
2．メモリーchを選ぶ

メモリーモードで消去したいメモリーch(M点灯)を選びます

3．データを消去する

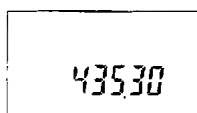
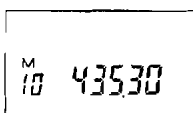
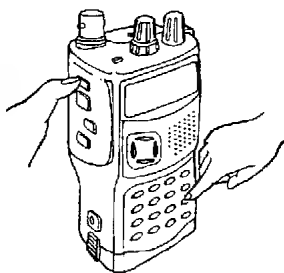
[F]キーを押しながら MW/VM を押します。

完了音が鳴り、データが消去されました。
周波数等の表示はそのままでMが点滅します。もう一度[F]キーと MW/VM キーを押すとデータが再登録されます。

M 2 436.00

注意 データ消去後、チャンネルを変えたり、他のモードに変えたりするとデータの再登録はできません。VFOデータが表示されます。

メモリーデータをVFOに移す

メモリーモードで[F]キーを押しながら M▸V/C キーを押します。

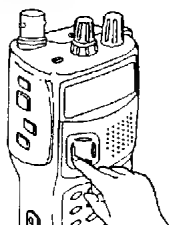
M 10 435.30　　435.30

メモリーデータがVFOにコピーされ、VFOモードになります。

注意 現在のメモリーチャンネルにデータがない場合は無効音が鳴り、動作しません。

5-2　コールチャンネルの使いかた

呼び出し周波数(コールチャンネル)を運用するモードです。
コールチャンネルはメモリーCに記憶されており(P17)通常のメモリーと同様に使うことができます。

コールチャンネルの呼び出しかた

VFO又はメモリーモードで CALL/BAND キーを押します。

Cが表示し、コールモードになります。

工場出荷時周波数
DJ-G40　433.00MHz
DJ-G10　145.00MHz

C 433.00

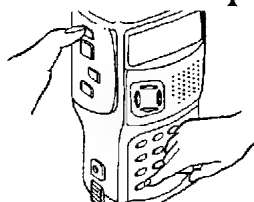
CALLモードで CALL/BAND キーか MW V/M キーを押すと元のVFOかメモリーモードに戻ります。

コール周波数を変更する

1．周波数を設定する

VFOモードで新しいコール周波数を設定して下さい。

2．Cチャンネルを選ぶ

[F] キーを押しながら MR▲ か MR▼ キーをCチャンネルが表示されるまで押します。

M C 433.50

3．メモリーに登録する

[F] キーを押しながら MW V/M キーを押します。

6.各機能の使いかた

6-1　スキャン

スキャンとは周波数やメモリーchを自動的に変化させ、信号の出ているチャンネルを探す機能です。スキャンには次の3種類があります。

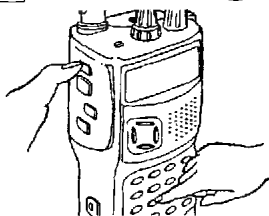
■バンドスキャン　　バンド内の全範囲をスキャンします。
■プログラムスキャン　　バンド内の指定範囲をスキャンします。
エッジ周波数はメモリーH(上限)とL(下限)に記憶しておきます。(周波数がL≧Hの時バンドスキャンになります。)
■メモリースキャン　　メモリーch(0～79)をスキャンします。

いずれも最後にUP/DOWN操作した方向にスキャンを行います。

スキャン再開条件を設定する

スキャン動作中でも設定可能です。

信号を受信するとスキャンは一時停止しますが、再開する条件は2種類あります。

[F]キーを押しながら TMS キーを押します。

キーを押す度にスキャン再開条件が切換わります。

●タイマ　スキャン
スキャン停止後、5秒経過するか5秒以内に信号がなくなるとスキャン再開します。

43300

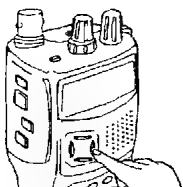
工場出荷時はタイマースキャンです。

●ビジースキャン
信号を受信している間、スキャン動作が止まります。信号が2秒途切れるとスキャン再開します。

43300

バンドスキャン

バンド内の全範囲をスキャンします。

[スタート] ①VFOモードにします。
②PO SCAN キーを押します。

テシマルポイントが点滅し、チャンネルステップ単位でスキャンを行います。

バンドスキャン中

43300

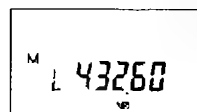
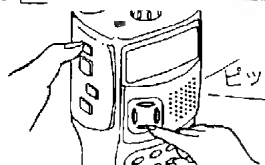
[ストップ] MW V/M、PO SCAN、PTT キーのいずれかを押します。

プログラムスキャン

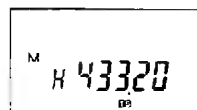
メモリーLとHの間をスキャンします。

1. 下限周波数(L)を設定する

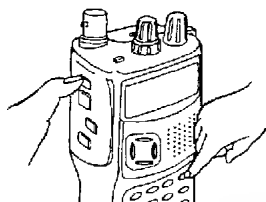
①VFOモードで下限の周波数を設定します。
②[F]キーを押しながら MR▲、MR▼ キーでメモリーLを選びます。
③[F]キーを押したまま MW(V/M) キーを押します。

M L 432.60

2. 上限周波数(H)を設定する

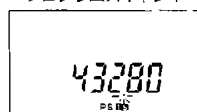
同上の手順でメモリーHに上限周波数を登録します。

M H 433.20

(注 意) 同一バンド内で、必ずメモリーHの周波数がメモリーLより大きくなるように設定して下さい。それ以外の場合はバンドスキャン動作になります。

3. スキャンの開始と終了

[スタート] VFOモードで[F]キーを押しながら PS(A)PRI キーを押します。

PSが点灯、デシマルポイントが点滅し、チャンネルステップ単位でスキャンを行います。

プログラムスキャン中

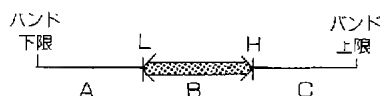
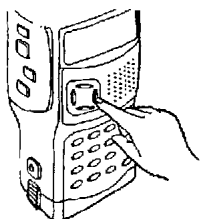
432.80

[ストップ] MW(V/M)、PO(SCAN)、[F]キーと PS(A)PRI、[PTT]キーを押します。
PSは消灯します。

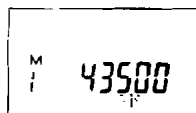
プログラムスキャン範囲

プログラムスキャンスタート位置が右図A、B、Cいずれの場合もBの範囲をスキャンします。

メモリースキャン

スタート ①MW V/M キーでメモリ－モードにします。

②PO SCAN キーを押します。

メモリ chに登録された周波数をスキャンします。

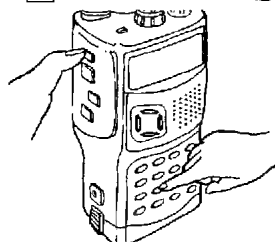
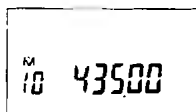
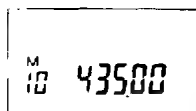
スキャン中はデシマルポイントが点滅します

ストップ MW V/M 、PO SCAN 、PTT キーのいずれかを押します。

スキャンしないチャンネルの設定(スキップ)

メモリ－スキャン時にスキャンされないchを設定できます。

①メモリーモードにします。

②スキップするメモリーを選びます。

③F キーを押しながら SKIP 5 キーを押します。

Mの上の▼が点灯し、スキャン時に無視されます。

(解 除) ▼が点灯中に同じ操作を行うと▼は消灯し再びスキャンの対象となります。

スキャン方向を変える

UP方向	ダイヤル右回し、MR▲ キー
DOWN方向	ダイヤル左回し、MW▼ キー

スキャン中に上記の操作を行うとスキャン方向が変わります。

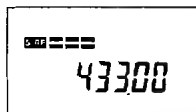
スキャン中のプライオリティ

スキャン中に PS A PRI キーを押すとプライオリティが同時に動作します。(P32)

(注 意) DSQが設定されていてもスキャン中、スケルチは一時的に解除されます。

6-2 チャンネルスコープ

チャンネルスコープとは周波数表示チャンネルを受信しながら、周辺のチャンネルの受信状況をレベル表示する機能です。

〈通常受信時〉

Sメーター横方向に7レベルで表示します。

〈チャンネルスコープ中〉

表示周波数(▼点灯)を中心に7波の受信レベルをタテ方向に4レベルで表示します。

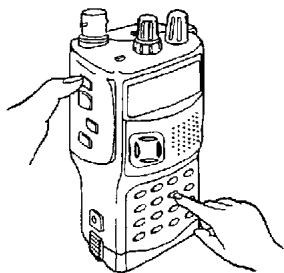
- 表示周波数をセンター周波数(センターチャンネル)といいます。
- センター周波数を5秒間受信する毎に上下各3波のレベル表示を更新します。

チャンネルスコープには次の2種類あります。

■VFOチャンネルスコープ　　チャンネルステップ単位でレベル表示します。
■メモリーチャンネルスコープ　隣り合ったメモリーchの周波数をレベル表示します。

VFOチャンネルスコープ

1．チャンネルスコープの開始と終了

スタート　① MW V/M キーでVFOモードにします。
② F キーを押しながら SEARCH 6 キーを押します。

チャンネルスコープモードで受信します。

センター周波数を5秒間受信する毎にチャンネルステップ刻みで上下各3波の受信レベルを表示します。

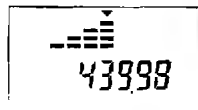
ストップ　MW V/M 又は、F キーと SEARCH 6 キーを押します。

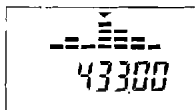
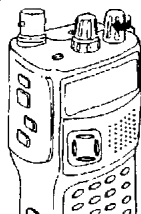
2．レベル表示の見方

(例)チャンネルステップ20kHzの場合

上下各3波の表示は5秒おきに更新されます。

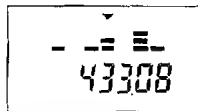
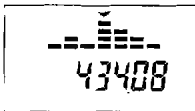
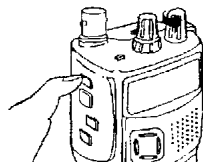
●バンドの範囲をこえるチャンネルはレベル表示しません。

439.98

3．センター周波数を変更する

●ダイヤルを右に回すか MR▲キーを押すとチャンネルステップ分センター周波数がUPし、ダイヤルを左に回すか MR▼キーを押すとDOWNします。

7波のレベル表示は1つずつ左右にずれます。

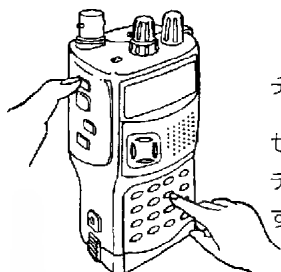
●[F]キーを押しながらダイヤルを右に回すとセンター周波数が1MHzUPし、左に回すとDOWNします。

434.08

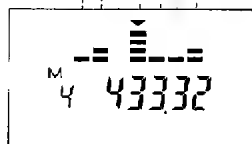
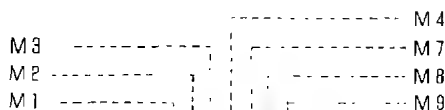
433.08

新しいセンター周波数を中心に7波のレベルを表示します。

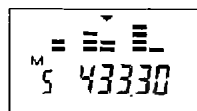
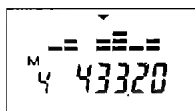
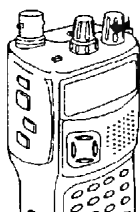
(注 意) チャンネルスコープ中はキーボードによる周波数入力はできません。

メモリーチャンネルスコープ

1．チャンネルスコープの開始と終了

注意 ● M点滅チャンネルやメモリースキップ指定チャンネルメモリーC、L、Hチャンネル表示中にスタート操作を行っても無効音が鳴り、チャンネルスコープモードにはなりません。

● メモリーチャンネルの上限、下限をこえるレベルは表示しません。

2．レベル表示の見方

2．センターチャンネルを変更する

を右に回すか MR▲ (#) キーを押すとセンターチャンネルがUPし、を左に回すか MR▼ (＊) キーを押すとDOWNする。

7波のレベル表示は1つずつ左右にずれます。

スコープモードでの操作

VFOスコープ、メモリースコープに共通です。

1．センター周波数(チャンネル)の受信時間を変更する

センター周波数の受信時間は、スコープ受信開始時は5秒に設定されていますが、一時的に変更することができます。

スコープモードで受信中に下図のキーを押します。

TONE (1) キー　7波のレベル表示をくり返します。(センター周波数の受信音は出ません)

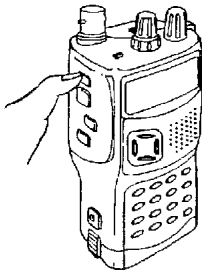
OFF SET (2) キー　3秒間センターを受信すると、他6波のレベル表示を更新します。

REV (3) キー　5秒間センターを受信すると、他6波のレベル表示を更新します。(最初の設定に戻ります)

PS (A) PRI キー　センターを受信し続けます。他6波のレベル表示は更新しません。

- 信号の有無にかかわらず指定した時間、センター周波数で受信します。
- 受信時間の変更はスコープを終了するまで有効です。
  スコープを終了すると、5秒受信に戻ります。

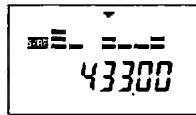
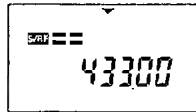
2．スコープモードで送信する

スコープ中に PTT キーを押すとセンター周波数で送信します。

送信中は7波のレベル表示を中断し送信出力を横方向に表示します。

受信中

43300

送信中

43300

PTT キーを離すと再びスコープモードで受信します。

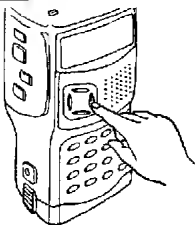
スコープモード受信時の注意

- DSQ(P41)が設定されていても、チャンネルスコープ中はスケルチは一時的に解除されます。
- センター周波数で受信している時、時々音声が途切れることがあります。これは5秒(または3秒)に1回周辺チャンネルのレベル表示を更新しているためです。

VFOチャンネルスイープスキャン

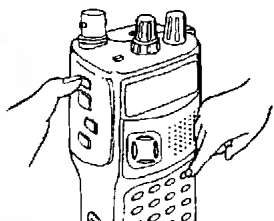
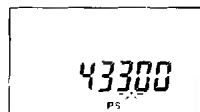
スイープスキャンとは周波数を切りかえながら、各チャンネルの受信レベルを順に表示する機能です。音声は聞こえません。

1．バンドスイープスキャンの開始と終了

スタート VFOチャンネルスコープ中に PO/SCAN キーを押します。

デシマルポイントが点滅し、バンド内を最後に操作した方向にスイープスキャンをします。

ストップ PO/SCAN キーか PTT キーを押すとVFOチャンネルスコープモードに、MW/V/M キーを押すと、VFO通常受信モードに戻ります。

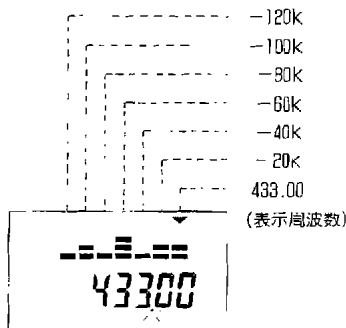
2. プログラムスイープスキャンの開始と終了

[スタート] VFOチャンネルスコープ中に[F]キーと (PS/A/PRI) キーを押します。

PSが点灯、デシマルポイントが点滅し、メモリーLとHの周波数範囲をスイープスキャンします。

[ストップ] [F]キーと (PS/A/PRI) キーか (PO/SCAN) キー、[PTT]キーを押すとVFOチャンネルスコープモードに (MW/V/M) キーを押すとVFO通常受信モードに戻ります。

3. レベル表示の見方

スキャン方向は最後に操作した方向になります。

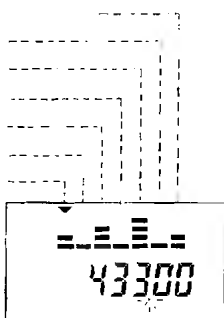
(例)ステップ 20kHz

−120k
−100k
−80k
−60k
−40k
−20k
433.00
(表示周波数)

43300

〈UP方向スキャン〉

表示周波数を1ステップずつUPしながらレベル表示します。

+120k
+100k
+80k
+60k
+40k
+20k
433.00
(表示周波数)

43300

〈DOWN方向スキャン〉

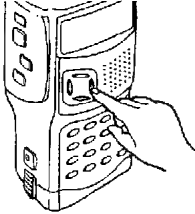
表示周波数を1ステップずつDOWNしながらレベル表示します。

(ダイヤル)、(MR▲ #)、(MR▼ *) キーにより、スキャン方向は変えられます。

メモリースイープスキャン

メモリー周波数をスイープスキャンします。

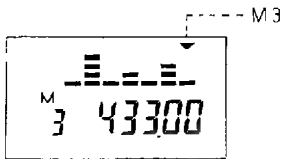
1. メモリースイープスキャンの開始と終了

スタート メモリーチャンネルスコープ中に PO/SCAN キーを押します。

デシマルポイントが点滅し、M点灯メモリーをスイープスキャンします。

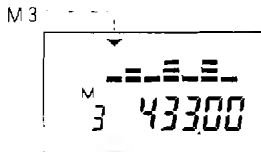
ストップ PO/SCAN キーか PTT キーを押すとメモリーチャンネルスコープモードに、MW/V/M キーを押すとメモリー通常受信モードになります。

2. レベル表示の見方

スキャン方向は最後に操作した方向になります。

〈UP方向スキャン〉

表示メモリーを右端に、番号の小さい方に隣接する6メモリーの受信レベルを表示します。

1チャンネルずつUPしながらレベル表示します。

〈DOWN方向スキャン〉

表示メモリーを左端に、番号の大きい方に隣接する6メモリーの受信レベルを表示します。

1チャンネルずつDOWNしながらレベル表示します。

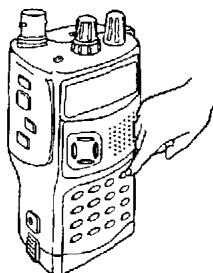
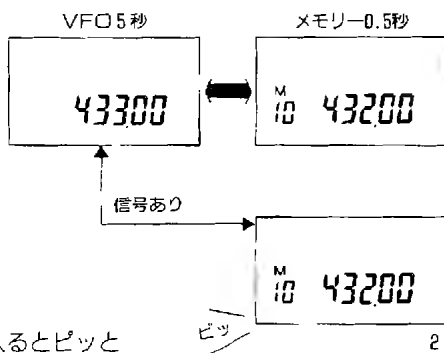
ダイヤル、MR▲ #、MR▼ ＊ キーによりスキャン方向は変えられます。

6-3　プライオリティ

表示周波数の他に優先チャンネルを持ち、表示周波数5秒、優先チャンネル0.5秒を交互に受信することをプライオリティ機能といいます。優先チャンネルに信号が入ると受信時間が2秒に延長します。

VFOプライオリティ

VFOモードでプライオリティ操作するとVFOモード5秒、メモリーモード0.5秒を交互に受信します。

① MW V/M キーを押してVFOモードにし、周波数を設定します。
② F キーを押しながら MR▲ # ▲、MR▼ * ▼ キーを押し、メモリーチャンネルを選びます。
③ PS A PRI キーを押します。

プライオリティ解除

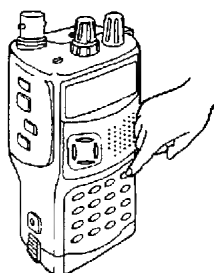
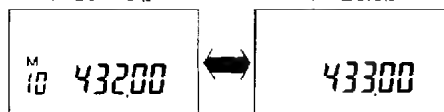
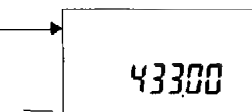
VFOプライオリティ、メモリープライオリティに共通です。

- 5秒受信側で MW V/M キーか PS A PR キーを押すと解除されます。
- 0.5秒受信側で PTT を押すと解除されます。
- 解除後は、操作を行った方のモードになります。

（注意）DSQが設定されていても、プライオリティ中は一時的に解除されます。

メモリープライオリティ

メモリーモードでプライオリティ操作するとメモリーモード5秒、VFOモード0.5秒を交互に受信します。

①VFOモードで周波数を設定します。
② MW/V/M キーでメモリーモードにし、メモリーチャンネルを選びます。
③ PS/A/PRI キーを押します。

プライオリティとスキャンを同時に実行する

スタート　プライオリティ動作中、5秒受信側で PO/SCAN キーか F キーと PS/A/PRI キーを押すとスキャンが同時に動作します。

ストップ　プライオリティ・スキャン両方解除………… MW/V/M キー
プライオリティのみ解除……………………… PS/A/PRI キー
スキャンのみ解除………………………………… PTT 、PO/SCAN
F と PS/A/PRI キー

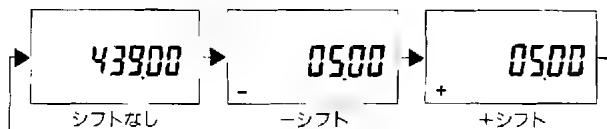
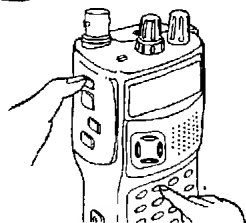
(注意) メモリープライオリティ中は F キーと PS/A/PRI キーを押しても無効です。

6-4　シフト方向とオフセット周波数

受信周波数に対して送信周波数をオフセット周波数ぶんだけ「＋」、または「－」方向にシフトする機能です。

シフト方向を設定する

F キーを押しながら OFFSET 2 キーを押します。

押す度に設定が変わります。

（オフセット周波数が表示されます）

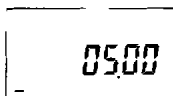
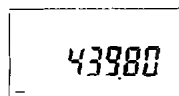
オフセット周波数を設定する

オフセット周波数表示中に右図に従って設定して下さい。

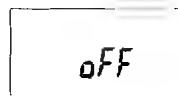
- 設定範囲は　0～15.995MHz
- 初期値　5MHz（DJ-G40）
　　　　　0.6MHz（DJ-G10）

	UP	DOWN
1チャンネルステップ単位	ダイヤル右回し／MR▲	ダイヤル左回し／MR▼
1MHz単位	F キーを押しながら ダイヤル右回し／▲	F キーを押しながら ダイヤル左回し／▼

（終了）　MW、PTT キーを押します。
F キーと TONE 1 キーでトーン設定モードに、F キーと STEP 0 キーでチャンネルステップ設定モードになります。

又は＋シフト点灯中に F キーを押しながら OFFSET 2 キーを押すと設定はそのままで、オフセット周波数が表示されます。

オフバンドについて

シフト設定時、送信周波数がバンド範囲外になるとPTTを押しても送信できません。

oFF

6-5 トーンエンコーダとトーン周波数

トーンエンコーダを設定すると送信時にトーン信号が付加されます。
オプションのトーンスケルチユニット(EJ-16U)を装着した場合はP53を参照して下さい。

トーンエンコーダに設定する

1. トーンエンコーダモードに設定する

F キーを押しながら TONE 1 キーを押します。

Tが点灯し、トーン周波数が表示されます。
(初期値88.5Hz)

(単位Hz)

885

2. トーン周波数を設定する

トーン周波数表示中にダイヤルか MR▲ # 、MR▼ * キーにより39波が切換わります。

トーン周波数一覧表
(単位Hz)

67.0	69.3	71.9	74.4	77.0	79.7
82.5	85.4	88.5	91.5	94.8	97.4
100.0	103.5	107.2	110.9	114.8	118.8
123.0	127.3	131.8	136.5	141.3	146.2
151.4	156.7	162.2	167.9	173.8	179.9
186.2	192.8	203.5	210.7	218.1	225.7
233.6	241.8	250.3			

(終了) MW V/M 、PTT キーを押します。
F キーと OFFSET 2 キーでオフセット設定モードに、F キーと STEP 0 キーでチャンネルステップ設定モードになります。

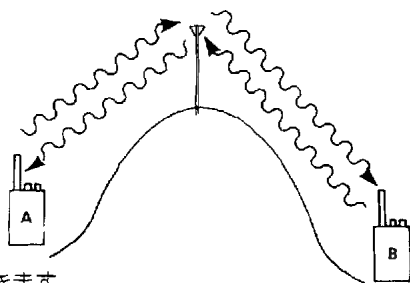
3. トーン設定を解除する

トーン周波数表示中に F キーと TONE 1 キーを押すとTが消え、解除されます。
オプション装着時はTが消えるまで数回操作して下さい。

T点灯中に F キーを押しながら TONE 1 キーを押すと設定はそのままでトーン周波数が表示されます。

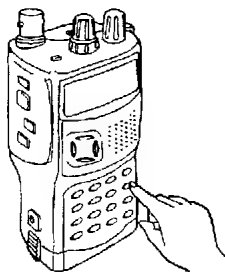
43300 → 885

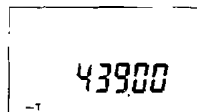
6-6　レピーターのつかいかた

レピーターとは遠く離れた局どうしの交信を可能にする無線中継局です。
430MHz帯のレピーターをアクセスするためには88.5Hzのトーン周波数と、「ー」方向に5MHzシフトして送信する必要があります。

DJ-G40はこれらの設定を簡単に行うことができます。

レピーター運用時の設定をする

DJ-G10にはこの機能はありません。

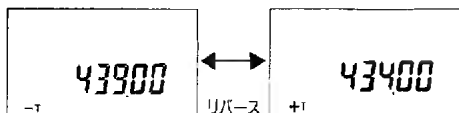
①MW/V/M キーでVFOモードにします。
②DIAL M/B/RPT キーを押します。

自動的に－5MHzシフト、トーン周波数88.5Hzに設定されます。

（解除）

シフト方向	なし	運用前の状態とは関係なく設定されます。
オフセット周波数	5MHz	
トーン設定	なし	
トーン周波数	88.5Hz	

（注意）メモリーモード、CALLモードでは動作しません。
オフセット周波数5MHz、トーン周波数88.5Hz以外に設定していて、レピーターモードに設定し、解除した場合は各々5MHz、88.5Hzになります。

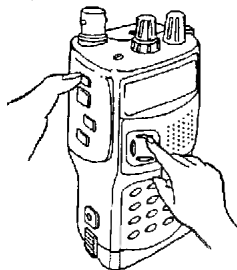
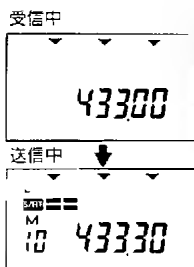
6-7　リバース

レピーターを使わずに相手局と交信できるかどうかを調べるために送信周波数と受信周波数を入れ換える機能をリバースといいます。

リバースモードで受信する

(注意) シフト方向が設定されていない場合や、リバースによりバンド範囲外になる場合は動作しません。無効音が鳴ります。

6-8　スプリット

スプリットとはVFO周波数で受信し、メモリー周波数で送信する機能です。VFOモードでのみ働きます。サブバンド側で設定できません。

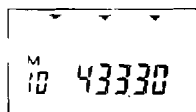
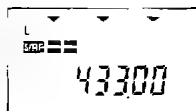
スプリットモードで交信する

スプリットモード中の注意事項

- 次の操作はできません。無効音がなります。
  CALL/BAND キー、F キーと CALL/BAND キー 、F キーと SEARCH 6 キー
- メモリーモードでシフト方向が設定されている場合はシフトをして送信されます。

スプリット リバース

スプリットモードでリバース操作を行うとメモリー周波数で受信し、VFO周波数で送信します。

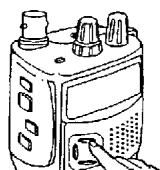
スプリット動作中に F キーを押しながら REV 3 キーを押します。

スプリットレバースモードになりメモリーモードになります。

送信中はVFOモードになります。
シフト方向が設定されていればシフトを行います。

（解 除）同操作を行うとスプリットモードになります。
MW V/M キーでスプリットレバースを解除しメモリーモードになります。

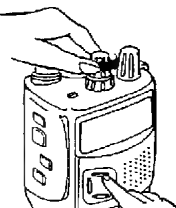
※クロスバンドデュプレクスを行なう時は、サブバンド側の周波数をメモリーに記憶させて、メインバンド側をVFOモードにしてスプリットリバース操作を行なって下さい。

6-9 ディスプレイランプ

ランプを5秒間点灯する

LAMP/SPLIT キーを押します。

ディスプレイランプが5秒間点灯しますが、点灯中に LAMP/SPLIT キーを押すとランプが消えます。
操作中ランプは点灯したままで、操作終了後5秒でランプは消えます。

ランプを常灯する

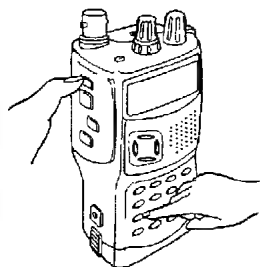
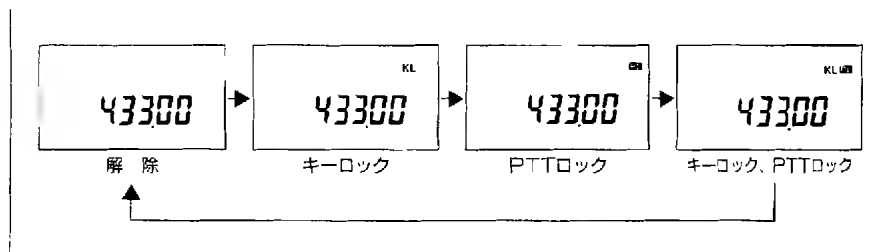
LAMP/SPLIT キーを押しながら電源を入れるとランプが常灯します。

点灯中に LAMP/SPLIT キーを押すと、ランプは消え、もう一度押すと点灯します。
常灯中、電源を切→入しても常灯のままです。

（解除）常灯中に LAMP/SPLIT キーを押しながら電源を入れるとランプは消えます。
LAMP/SPLIT キーを押すと5秒間点灯します。

6-10 キーロック/PTTロック

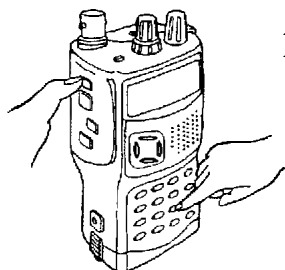
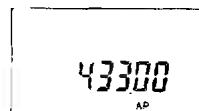
キー操作をロックする

キー操作をロックすることにより、誤って周波数を変えたり、送信を行ったりすることを防ぎます。

F キーを押しながら KL/PL キーを押します。

キーを押すたびに設定が変わります。
キーロック(KL点灯)中
PTT 、MONI 、LAMP/SPLIT キーのみ受付けます。
ツマミも無効です。
PTTロック(PL点灯)中送信できません。

6-11　オートパワーオフ

オートパワーオフとは、30分間操作や受信がなければ自動的に電源が切れる機能です。電源スイッチの切り忘れを防ぎます。

オートパワーオフを設定する

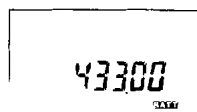
[F] キーを押しながら [APO 9] キーを押します。

APが点灯し、30分のパワーオフタイマーが設定されます。

(解 除) 同操作で解除されます。(APは消灯)

■AP点灯から30分間無信号、無操作が続くとメロディ音が鳴ります。鳴り終わると自動的に電源が切れますが、一部の半導体は通電状態にあります。早めに [VOL] を左に回して電源を切って下さい。

■オートパワーオフ状態から電源を入れる場合は一度 [VOL] を左に回して電源を切った後、再び電源を入れて下さい。

6-12　バッテリー表示

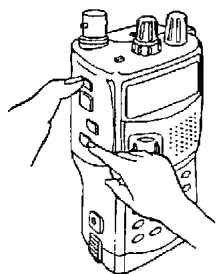
電池が消耗し、残り容量が少なくなるとBATTが点灯します。

電池交換はP3をお読み下さい。

6-13 バッテリーセーブ

バッテリーセーブをONにすると無駄な電池の消耗を防ぐことができます。キー操作や信号のない状態が5秒続くと、自動的に内部の電源をON(200ms)/OFF(400ms)をくり返します。

初期状態はONに設定されています。

バッテリーセーブをOFFにする

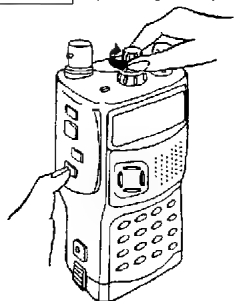
F キーを押しながら MONI キーを押します。

Sが消灯しバッテリーセーブ動作は行いません。

再設定 同操作でONになります。

6-14 ビープ音

キーを押した時のピッという音を鳴らないようにできます。

ビープ音をOFFにする

MONI キーを押しながら電源を入れます。

キーを押しても音は出なくなります。

DSQ受信をした時のアラーム音、オートパワーオフ時のメロディ音も出なくなります。
ただしDTMFコードの送出音は消えません。

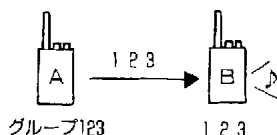
再設定 同操作で再び鳴り始めます。

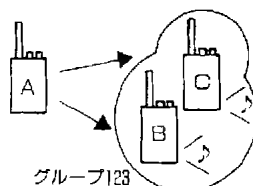
6-15 DSQ(DTMFスケルチ)

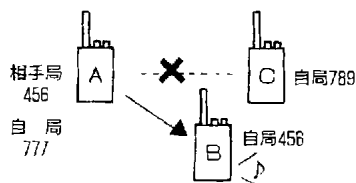
DSQ(DTMFスケルチ)とは送信時にDSQコード(DTMFコード)を付加して送信し、これと一致するコードを持った局のみスケルチが開き、交信できる機能です。特定の相手と交信する場合にたいへん便利な機能です。また、DSQで受信した場合、呼び出しがあったことが表示に残ります。

■DSQには次の3種類のモードがあります。

(1)コードスケルチモード

3桁のコードを送信すると、これと同じコードを持つ局のみスケルチが開きます。トーンスケルチと同じような運用ができます。

(2)グループページャーモード

同じグループコードをもったグループ全員を呼び出します。自局コードも送ることにより、相手局は誰から呼び出されたかかがわかります。

(3)プライベートページャーモード

ある特定の局だけを呼び出すことができます。

■DSQコード

DSQで送受するコードは以下のものがあり、すべて3桁の数字コードです

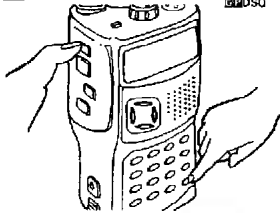
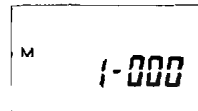
コード種別	内　　容	メモリー名
グループコード	グループで共通に設定するコードで8種類あります。グループページャーモードで交信するために必要です。 またコードスケルチコードを兼用しています。	M1~M8
自局コード	自局個有のプライベートコードです。 プライベートページャー呼び出しを受けるために必要です。	MP
相手局コード	プライベート呼出しを行う相手局のプライベートコードです。	MY

※チャンネルスコープモードではDSQ、DTMFスケルチは、一時的に解除されます。

DSQコードを設定する

DSQモ－ドで送受信する時にはあらかじめDSQコードを設定しておかなければなりません。

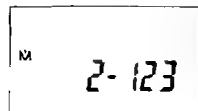
1．設定モードに入る

Fキーを押しながら DSQ SET キーを押します。

DSQコードが表示されます。（初期値は000です）

2．コードの種類を選ぶ

ダイヤルを回して入力するコードの種類を選んで下さい。

3．コードを3桁入力する

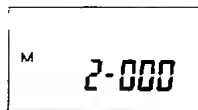
キーボードより数字3桁のコードを入力して下さい。
入力するとMの上の▼が点灯します。

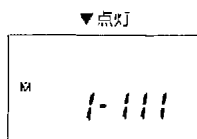
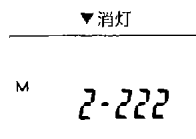
M 2- 123

4．設定を終了する

MW V/M、PTT、Fを押しながら DSQ SET を押します。

入力をミスした時は…

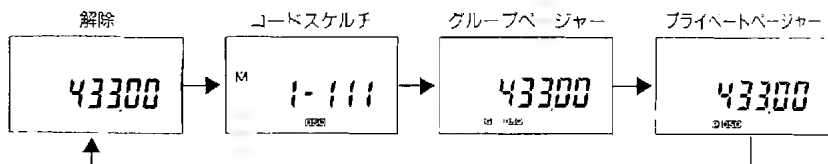
Fキーを押しながら M►V キーを押すとコードが000になり、入力位置が先頭に戻ります。

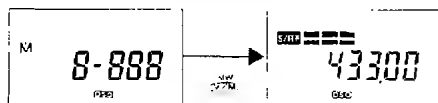
M 2-000

Ṁについて…

グループコードM1～M8表示中のMの上の▼はそのコードがグループ呼出しを受けることができるコードであることを表します。
DSQコード設定中に[F]キーを押しながら MR▼ キーを押すと▼が点灯/消灯します。

M1はグループ呼出しを受けることができます。

M2はグループ呼出しは無視します。

DSQモードを設定する

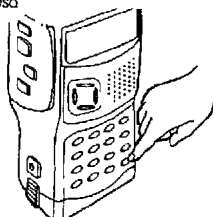
3つのDSQ交信モードのうちのいずれかを選びます。

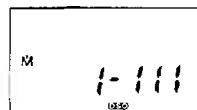
① DSQ SET キーを押すたびにDSQモードが変わります。

②DSQのみ点灯中に、グループコードが表示されます。
ダイヤルか MR▲、MR▼ キーによりM1～M8が選べます。

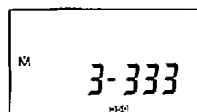
③コードスケルチモードで交信する場合はグループコード表示中に MW キーを押すと周波数表示に戻ります。又 [PTT] キーを押すと、周波数表示に戻り、そのまま送信状態になります。

コードスケルチモードで交信する

1．準備する

①P42に従ってグループコードを入力しておきます。

② 【D】キーを数回押します。

DSQが点灯し、コードが表示されます。

M 1-111 DSQ

③ダイヤルか【MR▲】、【MR▼】キーにより送信、受信するコードを表示して下さい。

M 3-333 DSQ

④【MW V/M】キーを押すと周波数表示に戻ります。

2．送信する

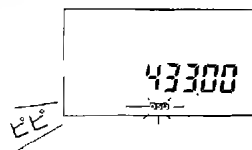
【PTT】キーを押すと自動的に最後に表示したグループコードが送信されます。ピポパ音がきこえます。

3．受信する

最後に表示したグループコードと一致するコードを受信した時に音声が聞こえます

●アラーム音が２回鳴ります。

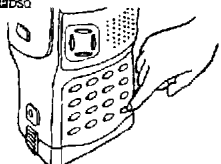
●DSQが点滅します。

【MW V/M】キーか【PTT】キーを押すと点灯に戻ります。

最後の表示コードが自局コードや相手局コードの場合はM１が選択されます。

グループページャーモードで交信する

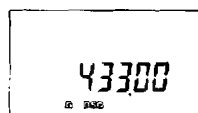
1．準備する

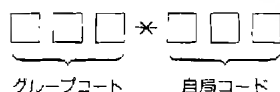
①P42に従ってグループコード、自局コードを入力しておきます。

② DSQ SET D G|P DSQ キーを数回押します。

DSQが点灯し、コードを表示させます。

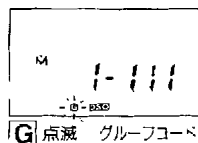
③ か MR▲ # ▲ 、MR▼ ＊ ▼ キーにより送信、受信するグループコードを選んで下さい。

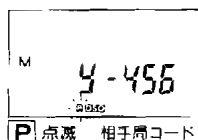
④もう一度 DSQ SET D G|P DSQ キーを押します。

G が点灯します。

2．送信する

PTT キーを押すと右の７桁のコードが送信されます。

3．受信する

設定したグループコード（M１～M８）のいずれかと一致するコードを受信した時に音声が聞こえます。

- アラーム音が数回鳴ります。
- グループコードが表示されます。
- G が点滅します。

G 点滅　グループコード

自局コードと一致した時には自動的にプライベートページャーモードに変わります。

P 点滅　相手局コード

- アラーム音は何かキーを押すと止まります。
- [G]または[P]の点滅やコードの表示は、MW/VZM キーを押すか、送信を行うと元に戻ります。

4. 交信する

一致したコードの表示中に[PTT]キーを押して下さい。
表示しているコードを送出し、応答できます。

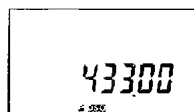
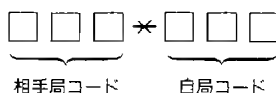
プライベートページャーモードで交信する

1. 準備する

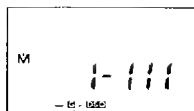
①P42に従って相手局コード、自局コードを入力しておきます。
② DSQ SET キーを数回押します。
[P] DSQを点灯させます。

2. 送信する

[PTT]キーを押すと右の7桁のコードが送信されます。

□□□＊□□□
相手局コード　自局コード

3. 受信する

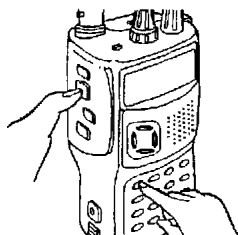
グループページャーモードと同じ方法で受信します。（P45）

受信したコードが設定したグループコードのいずれかと一致すれば自動的にグループページャーモードに変わります。
（グループコードより自局コードが優先されます）

4. 交信する

受信コードを表示中に[PTT]キーを押して下さい。

DTMFコードをマニュアル出力する

DSQモードに設定されていなくても1コードずつDTMFコードを送出できます。

PTT キーを押したままキーボードで送出コードを押します。

DTMFコードを送り出す間隔は1.5秒以内に行って下さい。

DSQ受信エラー時の表示

グループ、プライベートページャーモードで受信中に相手局コードを受信しなかった時はEが表示されます。

M E 1-001

グループコード

プライベートページャーモードの時は前回受信した相手局コードを表示します。

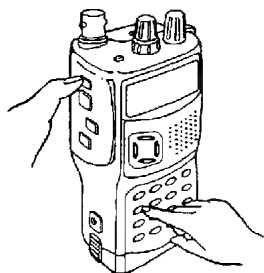
M E 4-456

前回の相手局コード

DSQ受信時の注意事項

- DSQコード設定時にMの上の▼を消灯したグループコードは受信できません(P43)
- DSQ受信中はスケルチが開いた後、信号が途切れても1.5秒以内は交信が可能です。
- 信号を受信していない時、**S/RF**が点灯しないようにSQLツマミを調整して下さい。
- **MONI** キー押下中は一時的にスケルチは解除されます。
- バッテリーセーブをONにするとDSQコードを受けにくくなります。
  DSQ設定中はバッテリーセーブをOFFにすることをおすすめします。

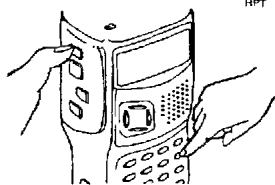
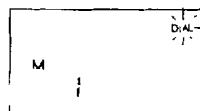
レピーターを使ってDSQで交信する

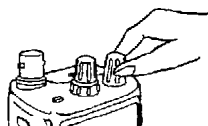
通常DSQコ　ドは PTT キーを押してから約450ms後に送信されます。レピーター運用時はレピーターが中継を開始してからコードが通過するようにDSQコードの送信を約750msに遅らせる必要があります。

6-16 DIAL機能

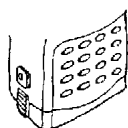
あらかじめ記憶しておいたDTMFコードを自動送出する機能です。
本機は5つのDIALメモリーを持っています。

コードをメモリーする

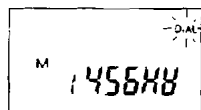
1．設定モードに入る

F キーを押しながら DIAL M B RPT キーを押します。

DIALが点滅、DIALメモリーNoが点灯し、コード入力モードに入ります。

2．メモリーNoを選択する。

を回してM1～M5のDIALメモリーNoを選んで下さい。

3．コードを入力する

キーボード先頭から順にコード入力します。

入力したコードは右端に表示され、1つ前に入力したコードは左にずれます。15桁まで入力できます。

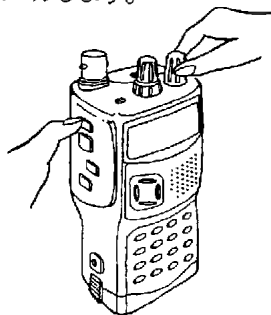
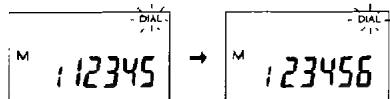
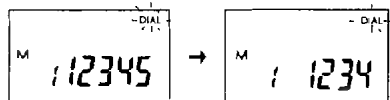
MR▲ # キーは' b '表示

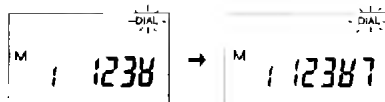
MR▼ ＊ キーは' H '表示

4．入力を終了する

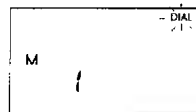
MW V/M 、PTT 、F キーと DIAL M B RPT キーを押すと入力を終了します。

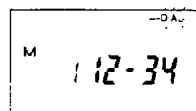
送出するメモリーNoを選んで終了して下さい。（DIAL点灯します）
DIALメモリー送出をしない時はコードの入力されていないメモリーNoを選んで下さい。（DIAL消灯します）

入力したコードを修正する

①[F]キーを押しながら[ダイヤル]を左右に回すか、UP/DOWNキーを押すと表示がスクロールします。

②新しいコードを入力します。

（例）
1 2 3 # 3 5 4を
1 2 3 # 7 5 4に修正

入力をミスした時は…

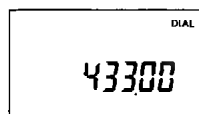
[F]キーを押しながら[M⇄V/C]キーを押すと入力したコードが消去されます。
先頭から入力して下さい。

ポーズ入力

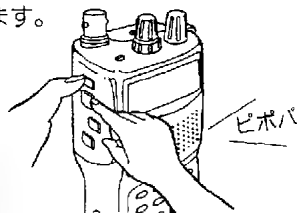
ポーズを入力するとコード送出間隔が１秒おかれます。
入力中、[F]キーを押しながら[0]キーを押すと'−'を表示し、ポーズが入力されます。
（ポーズを含めて15桁まで入力できます）

▲
2と3の間は１秒おいて送出されます。

DIALメモリーコードを送出する

1．メモリーNo.を選択する。

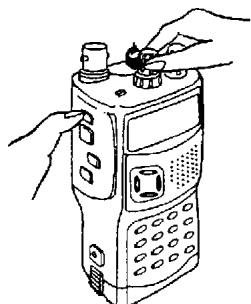
① F キーを押しながら B キーを押します。
② でメモリーNo.を選択します。
③ キーを押します。
DIALが点灯します。

DIAL 433.00

2．コードを送出する

PTT キーを押しながら F キーを押すと選択したメモリーのコードが送出されます。

（注意） DIALが消灯している時に上の操作を行ってもコードは送出されません。

6-17 リセット

リセット操作を行うと各種の設定やメモリーチャンネルの内容を工場出荷時の初期状態に戻ります。

リセットする

工場出荷時、リセット時のデータ

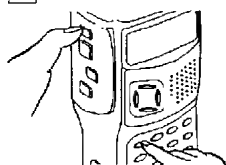
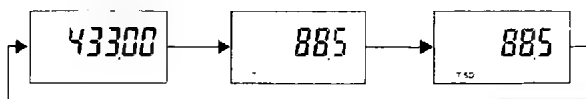
	DJ-G40	DJ-G10
VFO周波数	433.00MHz	145.00MHz
チャンネルステップ	20kHz	20kHz
シフト方向	なし	なし
オフセット周波数	5 MHz	0.6MHz
トーン設定	なし	なし
トーン周波数	88.5Hz	88.5Hz
メモリーchデータ	なし	なし
メモリーNo.	1	1
CALL周波数	433.00MHz	145.00MHz
スキャン停止条件	タイマースキャン	タイマースキャン
プログラムスキャン エッジ周波数	433.00MHz	145.00MHz
バッテリーセーブ	ON	ON
DSQ設定	なし	なし
DSQコード	0 0 0	0 0 0
DIALコード	なし	なし
オートパワーオフ	OFF	OFF

7.オプション機能

7-1 トーンスケルチ

オプションのトーンスケルチユニットを装着すると動作する機能です。トーンスケルチ設定中は自局と同じトーン信号を含む信号を受信した時にスケルチが開き、受信音が聞こえます。
トーン信号は通常は送信時と受信時は同じ周波数ですが、メモリーチャンネル70～79の場合のみ送受別のトーンの周波数を設定することができます。

トーンスケルチに設定する

1．トーンスケルチモードに設定する

[F] キーを押しながら TONE 1 キーを数回押します。

2．トーン周波数を設定する

トーン周波数表示中に ダイヤル、MR▲ #、MR▼ * キーによりトーン39波が切換わります。
（トーン周波数一覧P34）

（終 了） MW V/M 又は、[PTT] キーを押すと元の表示に戻ります。

3．トーンスケルチを解除する

TSQ点灯中に[F]キーを押しながら TONE 1 キーを押します。

TSQ点灯中の送信と受信

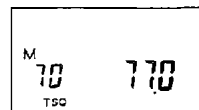
送信…設定したトーン信号が付加されて送信します。
受信…設定したトーン信号を含む信号を受信するとスケルチが開きます。

- MONI キー押下中は一時的にトーンスケルチは解除されます。
- レピータで交信する場合はトーン周波数はレピータによりカットされますのでトーンスケルチは設定しないで下さい。

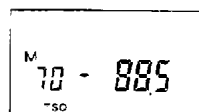
送受別のトーン周波数を設定する

1．送信時のトーン周波数を設定する

①メモリーモードにし、ch70～79のいずれかを呼び出します。
②[F]キーを押しながら TONE ① キーを数回押します。
③ ダイヤル、MR▲ #、MR▼ ✱ キーにより、送信時の
トーン周波数を選択して下さい。

M 70 77.0
TSQ

2．受信時のトーン周波数を設定する

④[F]キーを押しながら TONE ① キーを押します。
受信時のトーン周波数には、送信時と区別するために'－'が表示されます。

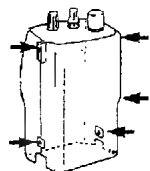
M 70 - 88.5
TSQ

⑤ ダイヤル、MR▲ #、MR▼ ✱ キーにより、受信時のトーン周波数を選択して下さい。

(注 意) V/M、[PTT]キーを押すと元の表示に戻ります。
トーン設定をメモリーに登録しておくと、設定内容は保持されます。

トーンスケルチユニットの取付け方

必ず電源を切ってから取付けて下さい。

①

バッテリーケースを外しドライバーで5箇所のネジをはずします。

②

本体を前面部と後面部に開いて下さい。

③

トーンスケルチユニット用コネクタ

トーンスケルチユニット

トーンスケルチユニットをコネクタに差し込んで下さい。

④本体を閉じてネジを取付けます。

8.故障とお考えになる前に

症　　状	原　　因	処　　置	ページ
電源スイッチを入れてもディスプレイは何も表示しない。	a.バッテリーケースの接触不良 b.電池の+、-の極性が逆 c.電池の消耗	a.バッテリーケースの電極のよごれなどを確認する。 b.極性を確認して電池を入れなおす。 c.乾電池は新しい電池と交換、Ni-Cd電池は充電する。	3
スピーカーから音が出ない。 受信できない。	a.VOLを左方向に絞りすぎている。 b.スケルチが閉じている。 c.トーンスケルチが動作している。 d.DSQが動作している。 e.PTTキーが押され送信状態になっている。	a.VOLを適当な音量にセットする。 b.SQLを左に回す。 c.トーンスケルチ動作を解除する。 d.DSQを解除する。 e.PTTキーをはなす。	10 53 41 11
スキャンしない。	スケルチが開いている。	SQLを雑音の消える位置にセットする。	10
周波数が変えられない。	a.C点灯モードである。 b.周波数ロック(KL)機能が働いている。	a.VFOモードにする。 b.周波数ロック機能を解除する。	13 38
送信中に表示が点滅したり表示が全て消えたりする。	電池の消耗	交換、または充電する。	39
送信しない。	a.電池の消耗 b.PTTロック機能(PL)が働いている。	a.交換、または充電する。 b.PTTロック機能を解除する。	38 39

9.保　守

9-1　アフターサービス

❶保証書

保証書は必ず所定事項（ご購入店名、ご購入日）の記入および、記載内容をお確かめの上、大切に保存して下さい。

❷保証期間

お買い上げの日より1年間です。
正常なご使用状態でこの期間内に万一故障が生じた場合は、お手数ですが、製品に保証書を添えて、お買い上げの販売店または当社サービス窓口にご相談下さい。保証書の規定に従って修理いたします。

❸保証期間経過後の修理

お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。修理によって機能が維持できる場合には、お客様のご要望により有料で修理いたします。
アフターサービスについて、ご不明な点は、お買い上げの販売店または、当社サービス窓口にご相談下さい。

9-2　バックアップ

本機にはメモリーチャンネルの内容や、各設定内容が電源を切っても保持するバックアップ機能を備えています。

10.申請書の書き方

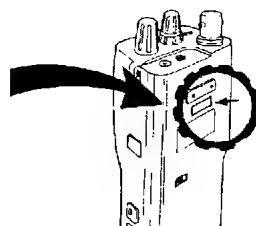
本機は「技術基準適合証明」を受けた機械ですので、市販の申請用紙の「無線局事項書を及び工事設計書」には以下のように、記入して下さい。

	希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式				
周波数帯	空中線電力	電波の型式	周波数帯	空中線電力	電波の型式
❶ 144M	10	F2、F3			
❷ 430M	10	F2、F3			

工事設計	第1送信機	第2送信機	第3送信機	第4送信機
変更の種別	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
❸ 技術基準適合証明番号	XXXXX			
❹ 発射可能な電波の型式 周波数の範囲				
変調の方式				
定格出力				
終段管 名称個数				
終段管 電圧	V	V	V	V
❺ 送信空中線の型式	単一型		周波数測定装置	A有(誤差　)B無
その他の工事設計	電波法第3章に規定する条件に合致している。		添付図面	□送信機系統図

❶はDJ-G10を購入されたお客様の記入例、❷はDJ-G40を購入されたお客様の記入例です。

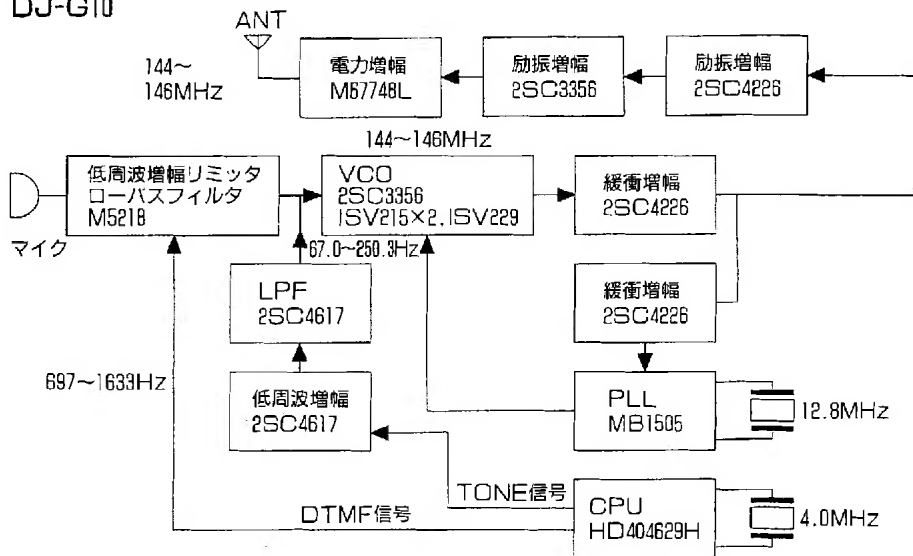
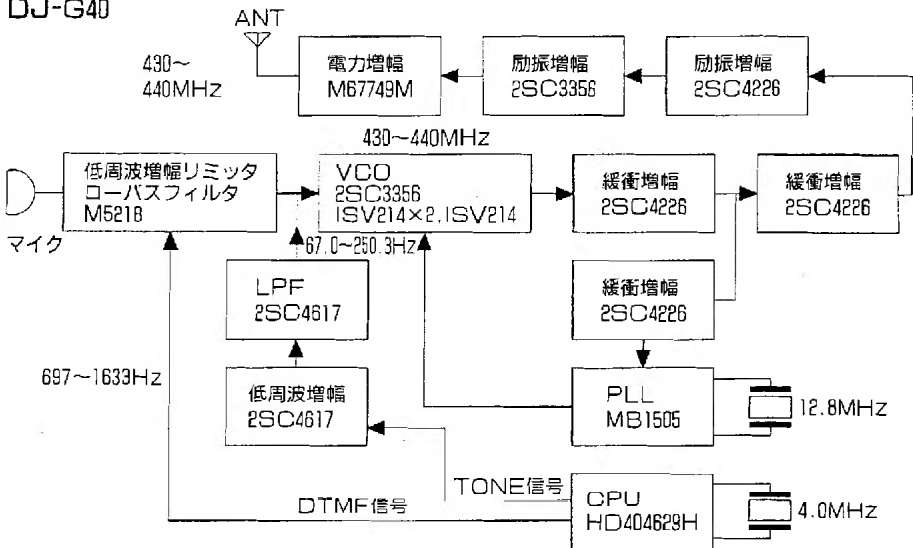
❸トランシーバー本体に貼られている「技術基準適合証明ラベル」の番号をご記入下さい。

技術基準適合証明シール
番号は無線機毎に異なります。

❹「技適証明送受信機」ですので省略できます。

❺使用する空中線の形式を記入して下さい。(付属のアンテナのみ申請する時は"単一型"とご記入下さい。)

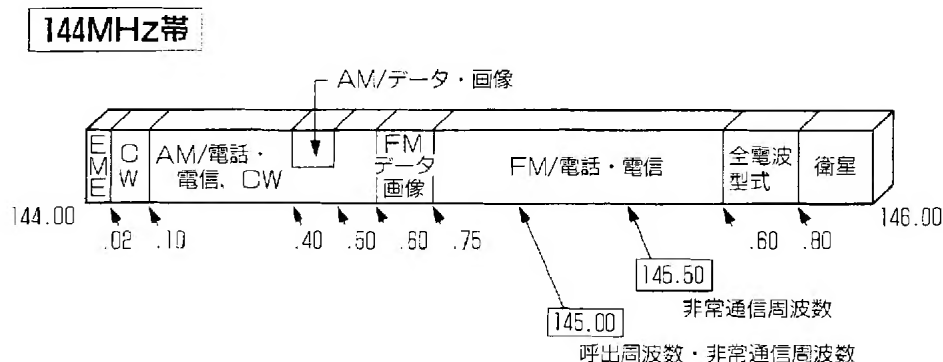
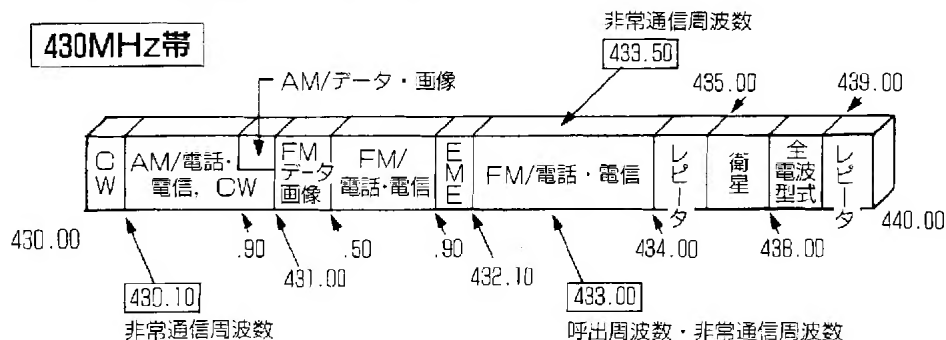
11.送信機系統

DJ-G10

ANT
144~146MHz
電力増幅 M67748L
励振増幅 2SC3356
励振増幅 2SC4226
144~146MHz
低周波増幅リミッタ ローパスフィルタ M5218
VCO 2SC3356 ISV215×2, ISV229
緩衝増幅 2SC4226
マイク
67.0~250.3Hz
LPF 2SC4617
緩衝増幅 2SC4226
697~1633Hz
低周波増幅 2SC4617
PLL MB1505
12.8MHz
TONE信号
DTMF信号
CPU HD404629H
4.0MHz

12.バンドの区分について

平成4年7月(改訂)のバンド区分です。

430MHz帯

144MHz帯

13.オプション

- EBP-30N(7.2V 700mAH ニカド蓄電池)
- EBP-31N(7.2V 1200mAH ニカド蓄電池)
- EBP-32N(12V 700mAH ニカド蓄電池)
- EDC-36(アクティブフィルター付シガライターケーブル)
- EDC-51(急速型バッテリーチャージャー)
- EMS-8(リモコン付スピーカーマイク)
- EMS-9(スピーカーマイク)
- EME-12(ヘッドホンタイプ ヘッドセット)
- EME-13(インナータイプ ヘッドセット)
- EME-4(イヤホンマイク)
- EME-6(プチ型イヤホン)
- ESC-23,24(ソフトケース)
- EBC-6(モービルブラケット)
- EJ-16U(トーンスケルチユニット)

14.定　格

DJ-G40

■一般仕様

- 周波数範囲：430.000〜439.995MHz
  (サブ144.000〜145.995MHz)
- 電波型式：F 2、F 3 (FM)
- アンテナインピーダンス：50Ω
- 使用温度範囲：−10℃〜+60℃
- 電源電圧
  外部電源：13.8VDC(7.2〜16V接続可)
  電池端子：　9.0VDC(7.2〜16V接続可)
- 消費電流
  送信時H(13.8V)：約1.6A
  (外部電源)
  送信時H(9.0V)：約1.3A
  (電池端子)
  送信時M：約0.8A
  送信時L：約0.4A
  受信待ち受け時：約55mA
  バッテリーセーブ時平均：約25mA
- 接地方式：マイナス接地
- 寸法(W×H×D)：50×116×37mm
- 重量：360g
- マイクロホンインピーダンス：2kΩ

■送信部

- 送信出力
  H13.8V(DC IN端子)：5W
  H 9.0V(電池端子)：約2.5W
  M：約1W
  L：約200mW
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：−60dB以下

■受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
  第1中間周波数：30.85MHz
  第2中間周波数：455kHz
- 受信感度(12dB SINAD)
  メインバンド：−15dBμ以下
  (0.18μV)
  サブバンド(VHF)：−10dBμ以下
  (0.32μV)
- スケルチ感度(メインバンド)：−20dBμ以下
  (0.1μV)
- 低周波出力(10%ひずみ時)：200mW以上
  (8Ω)負荷

DJ-G10

■一般仕様

- 周波数範囲：144.000〜145.995MHz
  (サブ430.000〜439.995MHz)
- 電波型式：F 2、F 3 (FM)
- アンテナインピーダンス：50Ω
- 使用温度範囲：−10℃〜+60℃
- 電源電圧
  外部電源：13.8VDC(7.2〜16V接続可)
  電池端子：　9.0VDC(7.2〜16V接続可)
- 消費電流
  送信時H(13.8V)：約1.5A
  (外部電源)
  送信時H(9.0V)：約0.9A
  (電池端子)
  送信時M：約0.6A
  送信時L：約0.4A
  受信待ち受け時：約55mA
  バッテリーセーブ時平均：約25mA
- 接地方式：マイナス接地
- 寸法(W×H×D)：50×116×37mm
- 重量：360g
- マイクロホンインピーダンス：2kΩ

■送信部

- 送信出力
  H13.8V(DC IN端子)：5W
  H 9.0V(電池端子)：約2.5W
  M：約1W
  L：約200mW
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5kHz
- スプリアス発射強度：−60dB以下

■受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
  第1中間周波数：30.85MHz
  第2中間周波数：455kHz
- 受信感度(12dB SINAD)
  メインバンド：−16dBμ以下
  (0.16μV)
  サブバンド(UHF)：−10dBμ以下
  (0.32μV)
- スケルチ感度(メインバンド)：−20dBμ以下
  (0.1μV)
- 低周波出力(10%ひずみ時)：200mW以上
  (8Ω)負荷

※JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法で測定したものです。(一部社内測定法を含む。)

本社・大阪支店	〒540 大阪市中央区城見2丁目1番61号(TWIN21 MIDタワー23階)	☎06-946-8140(代表)
東京支店	〒170 東京都豊島区東池袋3丁目1番1号(サンシャイン60・22階)	☎03-3983-9361(代表)
札幌営業所	〒060 札幌市中央区北一条西2丁目1番(札幌時計台ビル4階)	☎011-231-7712(代表)
仙台営業所	〒980 仙台市青葉区一番町4丁目6番1号(仙台第一生命タワービル15階)	☎022-221-8220(代表)
名古屋営業所	〒460 名古屋市中区栄2丁目1番1号(日土地名古屋ビル15階)	☎052-212-3541(代表)
広島営業所	〒730 広島市中区鉄砲町5番16号(広島サンケイビル9階)	☎082-222-0234(代表)
福岡営業所	〒812 福岡市博多区博多駅南1丁目3番6号(第3博多偕成ビル10階)	☎092-473-8034(代表)

修理のお問合せは

フリーダイヤル
東日本 0120 0120-464-007

フリーダイヤル
西日本 0120 0120-464-009

全国どこからでも無料で、サービス窓口につながります。受付時間/10:00~17:00(月曜~金曜、祝祭日は除きます)

PS0177A